

問題の認識からモニタリングまで

① 問題の認識

河川環境について、望ましい姿を抽出・設定し、現実と照らし合わせたときの違いを、顕在化した問題として認識します。さまざまな方法で問題を見つけ出し見逃さないこと、今の状況を見るだけでなく、今後何が起きそうかを考えるなど、予兆をキャッチすることが重要です。

●望ましい姿とは

河川環境の望ましい姿とは、気象・水象・地形・生物など自然的状況、流域や河川の歴史的経緯や住民の自然に対する認識など社会的状況を踏まえ設定する、それぞれの河川の本来あるべきであろう姿のことで、定性的で長期的な目標となるものです。この望ましい姿を抽出・設定（手法については『河川事業の計画段階における環境影響の分析方法の考え方』を参照）し、現実と照らし合わせたときの違いを顕在化した問題として認識すること、さまざまな方法で問題を見つけ出し見逃さないこと、今の状況を見るだけでなく、今後何が起きそうかを考えるなど、予兆をキャッチすることが重要です。

望ましい姿として、大きな人為的なインパクトが加えられる前の川の姿を設定することも、1つの方法です。この場合、航空写真などからわかるその河川の過去の姿や近傍や類似の河川の姿、かつて生息していた生き物の状況などが参考になることがあります。

このような作業の中で、その川の特徴や個性を見つけ出すよう努めます。そのためには、地域のなかでその川はどのような位置を占めるのか、地域の他の川と比べて、社会・歴史上および環境上どのような差があるのかなどについても考察を行います。

また、川そのものだけでなく、人と川のかかわり方についても望ましい姿を考えます。結びつきが強いところはどこか、どのような点（文化、景観、産業、災害など）での結びつきがあったかなど、過去のかかわり方を踏まえて、将来の新しいかかわり方を望ましい姿の1側面として考察します。

●過去に収集されたデータを整理

これまでの河川管理（治水・利水）の観点から過去に収集されたデータ（水文データ、航空写真、縦横断図、平面図など）は、河川環境およびその問題を把握するために役に立ちます。データの変化から人為的改変に伴う環境の変化を捉えることができます。例えば、河床低下の進行、複列砂州の単列砂州への変化、砂州の縮小・消失、植生の変化などがあります。このようなデータは日常的に整理しておくことが重要です。なお、②の既往資料のとりまとめでは、認識された問題にターゲットを絞った整理を行います。

●日常的な河川管理における認識

日常的な河川管理の行為のなかで、環境の変化に気づいたことをきっかけに問題が認識される場合もあります。特に改変後の環境の変化を意識しておくことが重要です。地点を決めて日常的で簡易的な調査（写真撮影など）を行うことも有効です。みられた変化の持つ意味を考えることが重要です。





●地域の声に耳を傾ける

地域の住民や市民団体のモニタリング情報から環境の変化やその予兆が捉えられることがあります。問題の認識には日常的にそのような地域の方からの声に耳を傾けることが重要です。例えば、以下のようなことです。

「最近魚や貝が減っている」 「魚が釣れなくなった」
 「貴重な〇〇がいたのに最近みられない」
 「見たことのない草（外来種）がはびこっている」
 「林が成長して昔と景色が変化してきた」
 「昔遊んだ河原がなくなった」 「ヨシ原が衰えてきた」
 「大きな淵があったのに埋まってしまった」
 「川底がはまり石になり泥がたまっている」
 「ごみが多い」 「水が汚れてきた」 「水が少なくなった」
 「魚が浮くことがよくある」



つまりこの段階から自然再生事業における地域住民との連携（地元の多様な主体との連携）は始まっていると言えます。ワークショップなどを通じて地域住民といっしょに議論や作業をすることや現地を歩くことで、声を集めることも有効です。

特に生き物に関しては、漁業者、市民団体などから提供・発信される情報に日常的に注意するほか、積極的な情報収集の取り組みを行うなどして、その川において大事とされている種（希少種）や代表的な種（注目種）などの生態の理解を深めるとともに、個体数や分布の動向の把握に努めることが重要です。

●現地をみる

データの整理や日常的な管理の中で気づいたり、地域からの声で環境や生き物の変化や問題に気づいたときには、それが河川のどこで、どのくらいの範囲で起こっているのか、治水・利水上の問題と関連はありそうかどうかなどを、まずは現地や川の中を歩くなどして自分の目で確かめることが重要です。

●既往の事例を参考に

河川環境上の問題はいくつかのパターンに大きく分類できると考えられますので、既往の事例を念頭においておけば、問題の認識の参考になります。そこで他の地域での取り組みなどを理解しておく必要があります。本書の各所に掲げた事例を参考にしてください。